

11月25日 本市と市社協が災害ボランティアセンターの設置に関する協定締結

本市と市社会福祉協議会は、災害時に被災者への生活支援を迅速に行うために災害ボランティアセンターの設置に関する協定を締結しました。同センターは大規模災害が発生した場合に設置。市の災害対策本部と同協議会が連携して、ボランティアの募集・受付や必要な資機材や物資などの調達、被災情報などの情報を共有し他団体との連絡や調整を行うなど、円滑な被災者支援につなげます。武田憲昭会長は「資機材の確保など今後しっかりと協議し、災害時に迅速に対応できるようにしていきたい」と話していました。



協定を締結した市社会福祉協議会の武田会長(右)

12月1日 海難救助協力者に感謝状



救助活動に貢献した藤原さん(中央)

志布志海上保安署は、志布志湾で故障したプレジャーボートの救助活動に貢献した都井地区在住の漁師、藤原幸成さんに感謝状を贈呈しました。昨年11月14日午前10時25分ごろ、同地区黒井集落から約3キロの沖で釣りをしていた6人乗りのプレジャーボートから「エンジンがかからなくなった」と118番通報がありました。近くで漁を行っていた藤原さんに申問市東漁業協同組合救難所から救助要請が入り、現場に急行してボートを発見し福島港までえい航しました。同漁協で行われた贈呈式では、同署の久木園茂樹署長から藤原さんに感謝状を手渡しました。久木園署長は「救助の時間が遅れていれば大きな事故になっていた可能性もあり、迅速な対応に大変感謝している」と感謝の言葉を述べ、藤原さんは「無事に港までえい航できてよかった」と話していました。

12月7日 JR日南線復旧に伴い地元園児が清掃活動

昨年12月11日にJR日南線が運行を再開するにあたり、フリー鉄道アナウンサーの田代剛さんの声かけにより、「福島今町駅」の清掃活動を行いました。

この清掃活動には、りんぼかん保育園とむつみ保育園の園児や、道の駅「くしま」の指定管理者である株式会社海山社中の堀口一樹社長とスタッフなども参加。駅内のクモの巣の除去や、駅外の草抜き、地面のコケ落としなどを手分けして熱心に取り組みました。園児たちは「復旧したら列車に乗りたい」などJR日南線への思いを話し、清掃活動を通じて駅を大切に利用することについて学びました。



清掃後は見違えるようにきれいになりました

2021年10月28日 12月16日 有明・本城小児童が味覚について理解深める

昨年10月28日に有明小学校、12月16日に本城小学校で、五感で味わうことの大切さを学ぶ「味覚の授業」が行われました。有明小学校は5年生9人が、本城小学校は3～6年生の23人が参加。

授業は「みやざきの食と農を考える県民会議」が実施。講師は道の駅「くしま」の指定管理者、株式会社海山社中の取締役専務であり料理人の吉岡良祐さんが担当しました。

吉岡さんは「塩味、甘味、酸味、苦味、うま味」の『五味』が味の基本であることなどを説明。その後児童はグミや塩、カカオチョコなどの調味料や食品5種類を、目をつぶるなどしながらじっくりと試食。「甘い!」「酸っぱい!」など感想を言いながら、それぞれの味覚の違いを体験していました。

吉岡さんは「食事を作ってくれる方、私たちの命を作ってくれる食材に感謝の気持ちを持って、好き嫌いなく何でも食べてほしい」と呼び掛けていました。

本城小学校5年生の河野匠真くんは「味にもいろいろな種類があることを知れてよかった。これからも食べ物を残さず食べるよう気を付けていきたい」と話していました。



有明小の授業の様子



講師の吉岡さん



有明小児童の集合写真



本城小の授業の様子



本城小児童の集合写真